

# 報告ダイジェスト

- ・ 2024年3月23日臨時理事会報告 (報告1)
- ・ ネパールPCBRルーニバ氏 研修報告② (報告2)
- ・ 玉井所長のイタリア訪問記～その③～ (報告3)

## 報告1 2024年3月23日開催 ～特定非営利活動法人ぱれっと臨時社員総会報告～

2024年度のスタートを控えた去る3月23日(土)、2015年以来となる臨時社員総会を開催しました。今回、ぱれっとの定款にも関わる重要な議案について会員の皆様にご説明し、2024年度以降の事業計画に反映させていくために企画し、下記ふたつの案件について審議しました。

### ●今回の議案及び総会の成立状況

今回の議案は下記の二つでした。

- ▶【1号議案】緊急一時保護事業の委託契約終了について(案)
- ▶【2号議案】「えびす・ぱれっとホーム」のいこっとへの移転ならびにぱれっとの家いこっと(シェアハウス)からグループホームへの業態転換について(案)

成立状況は次の通りでした。

2024年3月23日現在

議決権を有する正会員(A・B・マンズリー)

▶331名(A:169名 B:133名 マンズリー:12名)

当日会場出席者 ▶53名

事前表決 承認▶44名 非承認▶4名

委任 ▶110名 有効議決権総数▶211名

よって過半数を越えており、総会は成立しました。

### ●審議の経過

正会員田口雄一氏が議長に選出され、議案の審議がスタートしました。まず相馬理事長から、今回緊急一時保護事業(以下緊急一時)について渋谷区との受託契約を2025年3月をもって終了したいという旨の提案がなさ

れ、それについて下記の理由が挙げられました。

1993年、暮らしを支える新たな事業、えびす・ぱれっとホーム(以下ホーム)の開設にあたり、渋谷区との補助金交渉の過程で緊急一時保護事業の委託ならびに併設について打診がありました。当時は世話人の住み込みが通常で、1～2名の少ない人員で全面的に4～6名のケアを行なうのが当たり前であったホームに、通いの若手職員を複数名雇用したいと考えていたぱれっととしては、グループホームに対する補助金だけでは圧倒的に足りない人件費を補う必要もあって、その打診を受け入れました。そして、設立当初から安心・安全な住まいの場であるホームに、一時的な利用者が頻繁に出入りする状況への懸念の声が根強くあったものの、高まる緊急時対応のニーズという背景もあって、これまで30年間何とか続けて来ました。しかし、ホーム入居者の高齢化による支援度の高まりとその内容の複雑化、福祉業界全体の圧倒的な人員不足も重なって現場の状態は深刻を極め、様々な検討を重ねた結果、今回残念ながらこのような判断に至りました。

このような相馬理事長の説明について会場からは、深刻な状況について一定の理解を示す声もありつつ、「職員が不足している中、ホームそのものの運営は大丈夫なのか」、「緊急一時のニーズが益々高まっている中、事業主体である渋谷区とはどのように話し合いを重

ねてきたのか」「今後渋谷区の中で緊急一時の枠はどうなるのか」など、大変切実かつ厳しい質問が出されました。これに対し、相馬理事長からは「区には2年ほど前から人材不足の件も含めて、緊急一時とホームの併設は困難であると訴えてきています。今回の決定にあたっては、私たちが引き続き請け負うのは無理だけれども、渋谷区全体として緊急一時の枠をどう維持していくのかという話し合いの場にはもちろん参加する意思を示しています。区からの具体的な話はこれからだと思います」という回答がありました。

ここで第1号議案については採決を取り、会場出席者のうち承認の挙手40名、非承認0という結果と事前の承認44名、委任110名を合わせ、第1号議案は可決となりました。これにより2025年4月以降については、ぱれっとでは緊急一時を受諾しないことが決定しました。

## ●第2号議案

続いて第2号議案についての審議が行なわれました。相馬理事長から、1号議案の承認を受け、区からの委託金収入約780万円がなくなること、加えてえびす・ぱれっととホームの現在の月額家賃約100万円がさらに重くのしかかってくること、オーナー様との再三の交渉でもこれ以上の大幅な減額は難しいという回答があったことなどを説明しました。隣接する「ぱれっとの家 いこっと」（以下いこっと）にえびす・ぱれっととホームを移転することが出来れば、この家賃負担の軽減が図れることを合わせて話しました。一方でいこっとについては、開設から13年経過し、入居者の変遷の中で創立当初の「障害のあるなしに関わらず皆で支え合う暮らし」というコンセプトが揺らいでおり、なかなか広がって行かないこと、家賃の高さもあって、障がいのある人を含めた入居者が増えず、経営的にぎりぎりの状態が続いていて、根本的な改革が必要であることなど、課題も挙げられました。

## ●第2号議案は表決保留

しかし、定款にも書かれ、かつ「障がいのある無しに関わらず」というぱれっとの理念にも直結する取り組みであり、ビジネスモデルとしても継続努力を続けてきたいこっとについては、会員からもその終了について唐突すぎるという戸惑いとともに、その進め方についても疑問の声が上がりました。また、高齢のホームの入居者に、いこっとの設備を安全に使用できるのか、移転についてはいつどのように当事者に話をしていくのか、今いこっとに入居している人たちにはどうなるのか、どう説明するのかなど、より具体的な進行について説明を求める声が相次ぎました。また、今回の議案には間に合わせることはできませんでしたが、ホームに関して、直近の家賃交渉でオーナー様からの大幅な譲歩、減額をご提案いただき、そもそもの前提条件が流動的になっていることも含め、さらには会場からの「この場で採決をしなくても良いのでは」という提案もあって第2号議案については臨時総会での表決を見送り、改めて5月25日に開催される定期総会にて審議を求めることになりました。

## ●終わりに

最後に現在いこっとで暮らす障がい者の家族から、確かに創設時に見学した時に感じた賑やかな雰囲気と比べると、実際に入居した現在では変わってきているという意見が述べられ、それでも暮らしている本人は日々逞しく成長していつているという感想をいただきました。

相馬理事長からは「2029年に長年勤めて来た幹部の定年を控えたぱれっとは、大きな転換期を迎えます。障がいのある人たちはもちろんのこと、それを支える職員も生き活きと働き続けられる組織を目指して取り組みが続きます。その中で、いこっとに関しては、自由な暮らしという良さを残しつつ、本人の不安やニーズに寄り添える新しい暮らしの形について提案していきたいと思います」という表明があり、臨時総会は閉会しました。

（事務局長 南山達郎）

## 報告② PIJ ネパールからの研修報告 第2弾

先月号に引き続き、ネパール PCBR 代表のルーニバ氏から、障がいのある人たちの就労・生活支援に特化した研修報告をお送りします。PCBRはNGOとして24年間ネパールで障がい児者の領域で地域福祉の掘り起こしやリハビリテーションといった活動を展開し、福祉教育・理学療法・学校教育プログラムを続けてきています。

### ●「障がいとは何か」の探求

ぱれっと滞在中、「障がいとはいったい何か」というテーマでスタッフと意見交換できたことが一番の収穫です。障がいがあるからといって、その可能性を狭めるのではなく、その個性(特性)を生かすことでできることを伸ばす支援を行なっていく、健常者と同じように働けることが証明されたメンバーの姿を目の当たりにしました。実際に彼らの働きぶりを見て、彼らを見た目で判断するのではなく、内に秘めた可能性を引き出すことが支援だと感じました。

滞在中に地域の団体や区役所、民間企業を訪問する機会がありました。渋谷区役所内にある、障がい者雇用を行なう事業所が運営する食堂で10人のメンバーが働いていました。そのうちの1人がおかし屋ぱれっとの通所員で、短時間雇用枠で週2回勤務しています。朝9時から2時間、90食の蕎麦を打っていました。その手際の良さに感銘を受けました。それが終わってからおかし屋ぱれっとの仕事をしています。

### ●ボランティアの関り

ぱれっとの事業展開においてボランティアの役割が大きいことを知りました。ボランティア活動だけではなく、ぱれっとでは創設期から現在まで寄付文化が根付いてい

ます。カトマンズのボランティアグループもPCBRへ月額1000ルピー(1,000円)の寄付を支援しはじめています。ネパールではボランティアという概念は新しいものですが、PCBRは今後の発展にボランティアを動員していく考えです。クッキー部門とPCBRの将来の成長のためにはスタッフやボランティア育成が必要であり、PCBRは引き続き若いスタッフの育成強化に努力していきます。

### ●ネパールにはない「生活支援」という概念

ぱれっとは多くの知的障がいのある方にグループホームサービスを提供していますが、このコンセプトはネパールにはない概念です。しぶや・ぱれっとホームの入居者と夕食を共にしたことで、彼等の生活を直接見る機会がありました。グループホームでの生活支援は、自主性やプライバシー、地域との交流が閉ざされていた大型施設から、家庭的な雰囲気を持ちながら彼等の生活を尊重したサービスです。PCBRの父母たちは、子供がまだ20歳前後で若いというのもあり、親亡き後の生活を心配する意識は高くはありません。近い将来の課題だと認識させられました。

### ●PCBRの優先課題

4月25日にオンラインで会議を行ないました。政府から10万ルピーの補助を受け、販売方法やパッケージデザイン、生産管理などの専門家指導の件費と考えていました。スタートしたばかりでまだ世の中にこのクッキープロジェクトを知らしめることが優先課題ではないかとぱれっとからアドバイスを受け、雇用創設と就労支援を社会に訴えかけることがPCBRの使命であること改めて気づかされた会議でした。

(PCBR代表 ルーニバ・チットラカーラ)

玉井所長の

## 報告3



## イタリア訪問記③～地区の家Ⅱ～

昨年11月視察に訪れたイタリアの活動の中から、前回報告した「コーポラティーバ(注<sup>1</sup>)・スミズーラ」が手がけた、もう一つの地区の家(注<sup>2</sup>)「ヴィア・バルテア」を紹介します。

## ●「ヴィア・バルテア」ができた背景

「サンサルバリオ地区の家(注<sup>3</sup>)」の設置を経て、より大きな課題を抱えている地区に入り地域住民に直接的なアプローチをしようと2014年に開業したのがヴィア・バルテアです。また、スミズーラにとって家賃や改修費用等に公的補助を受けない自立的経営と社会的事業を両立させる挑戦でもありました。

## ●独自の事業展開。どんなところ？

トリノ駅からトラムで20分程北上すると徐々に街中の落書きが増えていき、少々荒んだ雰囲気が感じられる地域に入ります。言語の壁や生活習慣の違いにより就労機会に恵まれない移民らや低所得者層が多く暮らす地区です。その住宅街の中、ヴィア・バルテアは元印刷工場を改修して作られました。大きなゲートをくぐると正面の中庭を囲むようにいくつもの建物が並んでいます。敷地は900平米、民間の大家から月に3900ユーロ(約65万円)で借りています。

収入の大部分は敷地内でスミズーラが運営するカフェレストランやパン工場(どちらも就労に困難を抱える人の就労・訓練の場にもなっている)の売上その他、ジャズ教室等にテナント貸しをすることで得ています。一方で「誰もが自分の家の延長として使って欲しい」と代表のラッラさんが言う通り、ホールやキッチンレンタル料は非常に安く設定され、地域住民が集まり交わる場として結婚式やダンスサークル、ジャム作り等に使われています。前述した収益性の高い事業と組み合わせることで全体の収支バランスを取っているそうです。

## ●この場所が伝えていることは？

敷地内の至る所に木製のオブジェや絵が飾ってありました。これは、スミズーラの中心人物らと旧知の仲であったアーティス

トのアレッサンドロさんが、この敷地内にアトリエを構える代わりに、施設全体の改修を引き受けたことによるものです。ポップな色彩やユーモラスなキャラクター、身近にある材料で手作りされたオブジェたちは、伝統的で格式高いイタリアの街の風景の中で、特に珍しく映りました。今回の視察のコーディネーターである多木陽介さんが「フレンドリーなデザイン」と評したように、多様な民族や幅広い背景を持つ人を受け入れるこの場所のメッセージ性をノンバーバル(非言語的)な方法で来訪者に伝えているようです。代表のラッラさんは「この地域はコロナ以後生活苦の人が増え、小さな犯罪やドラッグの売買が増えた。私たちのような外から来た人に何ができるかと言うと、この地区に新しい眼差しを持ち込むこと。その一つが彼(アレッサンドロさん)のやっていること。美しさや優しさを伝えるのにお金(=高級な素材や特別な機材)は必要ない。それを目に見える形にしていく」と話していました。

## ●優しさの循環を生む空間デザイン

ラッラさんも腕を振るう手作りの惣菜が並ぶカフェレストランも、もちろんアレッサンドロさんの手で改修・装飾されています。ここには心に病を持つ人が毎日のように訪れ長時間過ごすようになりました。その人の食事代は、自然発生的に他のお客さんの寄付により賄われるようになったそうです。大きな重機や資本によらず、人の手により作られたことが直観で伝わる、優しさの循環を生む空間デザインが、この場所をより多くの人のための居場所になっているのだと感じました。



【オブジェの数々】



【入口から中庭を望む。】

左手はアレッサンドロ氏

(おかし屋ぱれっと・工房ぱれっとと所長 玉井七恵)

今回の視察は、ローマ在住の多木陽介氏のアテンドと通訳により実現しました。心より感謝を申し上げます。

(注<sup>1</sup>)「社会的協同組合」と呼ばれ、社会的事業を行なう営利組織 (注<sup>2</sup>) 行政ではなく民間が設置運営する公共空間。イタリア全土60ヶ所以上に広がる (注<sup>3</sup>) トリノ駅付近にある元公衆浴場を改修して2010年に設置した地区の家。市が改修費用を賄い、市から年間50ユーロという安価で借りている。そのため活動や間取りの自由度は低い